

日本共産党

区議会議員6期24年

おお たけ たっ じ

大竹辰治

いつでも住民と
ともに歩む党区議団長

みなさんに支えられ区議6期24年。

9名の日本共産党大田区議団の団長として、区民泣かせの負担増計画をきびしく追及する一方で、具体的な提案を行ない、認可保育園や特養ホームの増設を実現してきました。

地元では、早朝の駅頭での区政報告、町会、商店街、市民消火隊で活動。

「いつでもなんでも相談会」などで

相談件数6千件。区民の声をまっすぐ区政に届け、住民のみなさんとともに活動してきました。

いま、区民の暮らしと日本の平和に襲いかかっている安倍内閣の暴走ストップ、区民の暮らし第一の区政実現へ、全力を尽くします。より一層のご支援を心からお願いたします。

安倍暴走政治ストップ

大田民報社 2015年3・4月号外 北馬込1-4-12 佐藤方
日本共産党大田地区委員会の見解を紹介します。

大田民報

財産守って6期24年 大竹辰治さん



大竹辰治さんの区議1

期目に阪神淡路大震災が発生。以来、何よりも「住民のいのちと財産を守るのは政治の一番の仕事」と取り組んできました。

東日本大震災から4年。区によ

る世論調査でも、いま、区政への要望の第一位は「防災対策」です。

大震災直後、直ちに党区議団として被災地を訪問。被災の実態を調査し、区にたいし被災地への支援と、区の防災計画の見直し・強化を求めました。

津波・地震対策の拡充 地域に防災水槽実現

大竹さんは、「区は、区民の暮らしと安全を守る自治体本来の役割をはたすこと。同時に草の根からの住民参加の防災対策を」と市民消防隊など地域の防災活動に積極的に参加しています。

区議会では、防災対策の拡充を繰り返し提案し、実現してきました。

津波対策、地震対策が前進

区議会で大竹さんが提案した、区内の海拔表示や区の責任による「避難ビル協定」、耐震改修への補助率の引き上げ、家具転倒防止器具の支給の条件緩和・予算の増額、耐震シエルト・ベツトへの助成が実現しています。

防災水槽設置

西蒲田5丁目の災害危険地域の対策をと、住民とともに署名活動などにとりくみ、空き地の所有者にも働きかけ、西蒲田5丁目ふれあい児童公園と防災水槽が実現しました。



西蒲田5丁目ふれあい児童公園
地下に防災水槽設置

地元でも議会でも 住民のいのちと

福島原発事故

自ら放射線量測定・除染させる

福島原発事故による放射能被害から、子どもたちを守るため、区内各地で住民とともに放射線量を測定し、ホットスポットの除染も区に実施させました。

商店街からも依頼され

大竹辰治さんのホームページを見た商店街の役員さんから、大城通り商店街の放射線量測定を依頼されて測定し、その結果を商店街の「夏の感謝祭」で報告しました。

原発ゼロへも全力

各地で行われている原発反対集会にも地域の皆さんと参加し、「原発ゼロの日本を」の世論と運動を広げるためにがんばっています。



地域の皆さんとバスで福島反原発集会に参加する大竹さん

大竹さんは、区議会でも忙しい中、市民消防隊、防犯パトロール、交通安全週間の交通整理、お祭りや地域の中でも、住民の安心と安全のため頑張ってもらっています。今後も、地域や区議会の場での活躍を期待します。

松島信弘（小林町会役員）



▲市民消防隊の訓練（大竹さん中央）



▶交通整理をする大竹さん



▲放射線量測定する大竹さん

の願いで提案・実現 大竹辰治さん



消費税増税は許しません!!

町工場は日本の宝 商店街は町の顔

全事業所調査

プレミアム付商品券

住宅リフォーム助成など実現

いま、消費税8%への増税で、「くらしも営業も大変」「このままでは廃業だ」と、中小業者の悲鳴が聞こえます。

大竹辰治さんは、実家が自営業（洋服仕立業）、自らも区内の中小企業で働いていました。工場訪問で出された切実な声にこえて、「大田の町工場は日本の宝、町工場に活力を」と区の支援策を提案、2009・2011年度に「ものづくり経営革新緊急支援事業」が実施されました。

商店街は、消防団、子どもSOS、町会など地域の大事な役割を担っている「町の顔」です。大竹さんは地元での買い物促進のための「プレミアム付商品券」を提案、2009年以來6回の発行を実現してきました。

まちの建築業者の仕事が増え、経済効果が2倍以上の「住宅リフォーム助成」も実現、予算も当初の2倍に増やされています。

また、区内労働組合や中小商工団体でつくる不況打開大田区実行委員会とともに、区による全事業所の実態調査も実現させました。

住宅の大竹と呼ばれ
区営住宅建設でも

大竹さんは、大田借地借家人組合副組合長として、「住宅は福祉。安い公共住宅の建設を」と求めて、運動を進めてきました。そして、東矢口1丁目や西蒲田1丁目などに区営住宅の建設が実現しました。区議会では「住宅の大竹」と呼ばれるほど、住宅問題に力を入れています。



松原区長に予算要望を提出する党区議団

「ムダな開発・区民いじめ」と対決、区民

お母さんたちと力をあわせ

**中学3年まで医療費無料
4年間で認可保育園21園**

子どもの医療費助成制度。他党が反対する中、大竹辰治さんは3回の条例提案をするなど繰り返し提案し、ついに中学3年生まで無料になりました。元区立保育園保育士の妻と一緒に、3人の子どもを共働きで育てた大竹さん。「待機児解消は認可保育園の増設で」というママパパの熱い願いを受け止めて、区や他党の「認可保育園はもういらない」という姿勢を変えさせて、この4年間で認可保育園21か所・約1300人分の増設が実現しました。

4年間で5か所の特養ホームも

区内で1500人もの待機者がいる特別養護老人ホーム。国や都の未利用地の活用、用地の確保しやすい小規模施設などの提案を繰り返し、この4年間で5か所の特養ホームが実現の運びになりました。

いつも住民とともに
議会では政策通として

大竹さんは、地元の町会や区青年会にも参加、地域や商店街の各種行事にも参加して、いつも住民と一緒にです。

議会では他党議員から一目置かれる政策通です。

日本共産党区議団の団長として、自民党松原区政と「自公民オール与党」による大規模開発から、くらし第一への区政転換、区民の声が生きる区政をめざして奮闘しています。



▲お祭りでお神輿を担ぐ
大竹さん



▶予算特別委員会で資料
を示しながら質問する
大竹さん

「何にも負けない粘り」「困っている人を見すごせない」

▼新蒲田3-19、3-21と多摩川2丁目古川第二児童公園前のデコボコ道路が改修



▲東矢口1-4に街路灯設置



住民の声に 耳を傾け

児童公園が実現

建設会社の車両基地計画を断念させて、町内に公園がなかった東矢口2丁目に実現しました。

公衆トイレが使いやすく

新蒲田区民センター女子トイレに手すりが付き、一部は洋式トイレになりました。

また、池上会館のトイレが、午前6時15分～8時まで利用可能になり、会館前の広場で朝、体操をしている住民から喜ばれています。

生活 相談

事務所の看板を 見て駆け込み救 われた

にも負けない粘り」で住民の相談に応じて、解決してきました。相談件数は約六千件。

「国民の苦難あるところ共産党あり」が日本共産党の立党の精神です。大竹辰治さんも「困っている人を見たらじっとしてられない」性格で、北海道旭川の極寒の地で培った「何

東矢口のOさんは、「会社を首になり所持金60円しかなく、路頭に迷っている時、大竹事務所の看板を見て駆け込み、助けられた」と語っています。多くの人が大竹さんに助けられています。

日本工学院 風害対策実施へ

JR蒲田駅西口にある日本工学院の高層化でひどい風害が発生し、「強風の日はとても危険」な状況です。住民は大竹さんに

相談し区議会に陳情を提出、植樹による対策が行われましたが、十分な効果が上がりませんでした。

区議会で粘り強く対策を求めてきた大竹さんに対し、このほど学校側から「8～9メートルの工作

物で風害対策を行います」と、連絡がありました。



風害発生源の校舎

区の1千億円の積立金を生かし **実現します**

大田区には1千億円以上の積立金(貯金)があります。税金の使い方をくらし第一に切替えて実現します。

3つのゼロ

● 保育園待機児ゼロ

昨年4月の待機児は1781名。区の待機児ゼロの計画は3年後です。認可保育園増設で一日も早く待機児ゼロへ。

● 特養ホーム待機者ゼロ

現在1500人以上が入所を待っています。

● 75歳以上の医療費ゼロ

高齢者から高い医療費に悲鳴の声が上がっています。

わたしたちの町で

● 住民本位のまちづくりで住み続けられる大田区を

蒲田西口駅周辺の開発が始まります。京急蒲田・糀谷の駅前再開発では、住み続けられた住民は4割だけ。開発による住民追い出しは許しません。

● 貯留管など下水道整備で呑川の浄化

● 西蒲田・池上の交通不便地域へのミニバス運行

● 池上駅舎・駅周辺の整備、南口の設置

● 日本工学院の風害対策

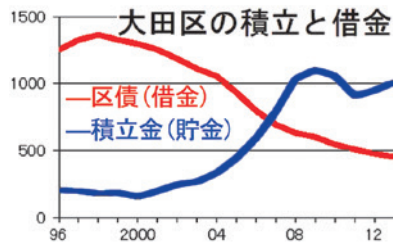
日本共産党の躍進した力で **ストップ!! 安倍暴走政治**

消費税増税・アベノミクス・憲法破壊・原発再稼働・沖縄新基地建設は許しません

● 政党助成金・小選挙区制の廃止を

4つの安心

● 若者の雇用拡大
● お産難民の解消
● 公営住宅増設・高齢者住宅確保
● 介護保険・国民健康保険料の減額



大田区は、区民の暮らしを犠牲にして、大規模開発のために1千億円以上ため込む一方で、借金を半分以下に減らしてきました。

大竹辰治さんの歩み

大竹辰治さんは1952年、北海道旭川市生まれ。日本の最低気温記録・氷点下41度の極寒の地で「何にも負けない粘り」が培われました。高校時代はサッカー部で活躍しました。

専門学校の教育に疑問もち民青同盟に

高校卒業後、外国航路の通信士をめざして大田区の日本電子工学院（現日本工學院）に入学。19歳の時、夢と現実との違いやもうけ主義のマスプロ教育に疑問を感じ、社会について学びたいと民主青年同盟に加盟しました。

暖かい人間集団・戦争反対の党 日本共産党に

青年運動を通じて、自分よりも他人を心配する心温かい人間集団、「侵略戦争に命がけで反対した党」日本共産党に感銘し入党、20歳でした。

働く仲間の暮らしと権利を守る労働運動に

専門学校卒業後、新蒲田の中小企業（東電舎）に入社し、モーターの検査技師として働きました。全国金属労働組合下丸子地域支部に加盟し、執行委員、青年部長などで活動。会社は大竹さんに労組攻撃の大阪配転命令。職場の仲間と力を合わせて撤回させました。

「政治を変える力になりたい」と区議に挑戦

日本共産党や労働組合の活動を通じて、多くの住民が悪政に苦しめられていることを痛感、「政治を変える力になりたい」と区議会に挑戦、39歳で初当選、以後6期連続当選。保健福祉委員長、羽田空港対策特別委員長などを歴任。

《現在》 党区議団長／地域・産業委員、羽田空港

対策特別委員／大田借地借家人組合副組合長／町会市民消防隊員・交通班長。

《家族》 妻（元区立保育園保育士）、子ども3人、

猫1匹。

《趣味》 映画鑑賞、旅行、社交ダンス、カラオケ

《活動地域》 西蒲田、新蒲田、東矢口、池上



94歳の母と家族全員（旭川の実家前で）

いつでもなんでも相談

ホームページ 大竹辰治で検索

大竹辰治事務所 電話 03-3735-2611 FAX 03-3736-9453